

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100502		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム津田沼		
所在地	千葉県習志野市藤崎4-10-8		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成30年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街の中にあり、周辺の散歩道には紫陽花通りを始め、四季折々の草花が楽しめる場所が多い。緑が豊富で癒しに恵まれた環境である。また居室から見下ろせる広い芝生の庭があり、日光浴や季節の草花が楽しめる。建物は明るく温かみのある木目調で、落ち着いた造りになっている。グループホームは左右対面型の2ユニットで2階に設けられており、1階に併設されたデイサービスに気軽に参加する事が出来る。恵まれた環境の他、職員の年齢層は厚く、その良さを生かしバランスの良いきめ細やかな支援が、当事業所の特徴である。利用者が地域の中でその人らしく生き生きと暮らせるよう、職員一同ケアの実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階にデイサービスを併設しており、2階にヘルパー室を中心として東西に2ユニットが配置されていることから、利用者が両ユニットを行き来したり、デイサービスとの交流があるなど、利用者にとって変化のある暮らしを支援している。採光がよく明るいホームは、設立から15年が経過しているが、清掃が行き届き清潔である。職員育成にも配慮しており、職員が外部研修に参加する時はホーム全体でバックアップする体制があり、職員のモチベーションも高い。介護施設や医療機関と情報交換ができる場である「地域交流会」には積極的に参加して、得た情報をサービスに活かすように努めている。

4yuni		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えるところに、「お元気で明るく楽しく過ごしましょう」とフロア内と事務所中央に設置して、分かりやすい理念を自然と行えるよう、全員で共有できるようにしている。	管理者は職員が理念を理解し、日々のケアの中で実践できるように、挨拶や言葉遣いの大切さを伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事が行われる際には、回覧板を通して出来る限り参加している。	町内会に加入し、桜まつり他各種行事に参加している。運営推進会議には町内会役員の出席もある。また、小学生の体験学習や大学生の実習なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の住民の方々に知ってもらえるよう、近隣を散歩を通して、挨拶を行いながら、理解をしてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に推進会議を開催し、ホームの状況を報告する。構成委員の方々に講話を依頼して、推進会議が有意義な会議になり、よりサービス向上に繋がるようにしている。	会議は年6回開催をしており、議事録もていねいに整理されている。開催案内にはテーマを提示して、参加者それぞれの立場からの意見をもらうなど、会議がマンネリ化しないよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス向上連絡会に出席し他事業所のサービス状況又、市からの連絡事項を聞く。介護相談員の来設時に、コミュニケーションを図っている。	市の関係部署とは電話や直接訪問するなど、連絡を取っている。また、年2回の「介護サービス向上連絡会」に出席して情報共有を図ったり、行政主催の研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部研修に参加して、正しく理解した上で、内部研修を通して身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。	内・外研修を通じ、職員に主旨の徹底が図れるよう繰り返して共有の機会を持っている。言葉遣いで気になることがあった場合は、気付いたその場で注意し合うようにしている。また、身体拘束委員会を充実すべく、取り組んでいるところである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は高齢者虐待防止法について考え外部研修や内部研修を通して虐待の防止について理解を全職員に学ぶ機会を設けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して、学ぶ機会を設けるよう努めている。また、外部研修に行った職員には、内部研修での報告など設けるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、本人や家族には不安がないよう十分に説明を行い、理解と納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時などで、ご意見や要望などを述べられるように、努めている。	「あじさい便り」(ホーム便り)の他、「けんこう便り」で利用者個別に健康面や日頃の様子を伝えたくて、運営推進会議などで意見を聞くようにしており、意見の反映に努めている。	家族などの意見の把握については、さらなる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や、朝の申し送り、夕方の申し送りで職員からの意見や提案を聴く機会を設けさせて頂いている。	管理者は職員が意見の言いやすい環境をつくるように心がけており、口頭、書面での意見を受けている。意見は反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすく、またやりがいがある職場の環境作り、各職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握して、ケアの最も良い方法等を伝える等職員のスキルアップに努める。又研修参加を促す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス向上委員会や同業者の交流会での意見交換勉強会の参加など通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心してサービスが受けられるように、じっくり話を聞き受け止め信頼して頂けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の葛藤を考え、家族が不安に感じてる事や困っている事を出来るだけ細かく話して頂けるように信頼関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の話を傾聴して正しくニーズを把握するように心掛けている。場合によっては他のサービスの利用に繋げていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得られた個人情報とその人らしい暮らし方や力の発揮に活かし、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時での家族への説明や、毎月の便りで日常の生活状況の把握をして頂けるように努め、職員では成し遂げれない事は家族に協力を得て、家族との絆が深められる様に関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらこれまで大切にしてきた人やいきつけの場所等、これまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	友人や家族などの訪問は歓迎している。また、法事などで帰宅したり、馴染みの美容院に行くなど、これまでの関係性が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの気持ちを尊重しながら、入居者の皆様が孤立することなく、適度に関係を持つことができるようにレクリエーションやお手伝い等への参加を促す支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後でも、全く関係を断ち切ってしまうのではなく、ご本人やご家族から相談があった際には、親身になって対応する様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族の思いや希望を聞き、入居されるまでの生活環境を把握し本人の意向や希望を受け入れる事ができるよう努める。	入居前のアセスメントで希望や趣味などについて聞いており、趣味を継続できるように支援している。入居後も思いの把握に努めており、会話ができない人についても表情などから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族からコミュニケーションをとり、細やかに情報収集を行い、入居者の全体像を把握し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人・家族・職員間で情報を共有するようにして、入居者一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の方々の情報を共有して、一人ひとりのケアのあり方について検討し、より良い介護を実践できるように努めている。	本人や家族などの意向を踏まえ、職員全員の気づきなどをもとに介護計画を作成し、3か月ごとにモニタリングを行い、見直しにつなげている。また、利用者の状況に変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子を個別記録にまとめており、職員間で情報共有や適宜見直しを行いながら、日常の広い場面で活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などに変化が生じて、新たなニーズが生まれた場合には、支援やサービスの提供には可能な限り柔軟且つ多機能に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の趣味、得意分野を見出す様努めている。又出来る限りニーズに応えられる様な支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族がかかりつけ医との関係を大切にし協力医、家族、ホームとの情報共有を図り適切な治療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医への受診は家族に対応を依頼しているが、ホームの協力医とも連携を図れるように支援している。また、訪問歯科も来ており、適切に治療等が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師は、職場内で日常的に連絡・相談が取れるような体制を整えており、入居者の異常などにも迅速に対応ができ、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は看護・介護サマリー提供、情報提供を行い病院との連携をとり情報交換を行っている。面会を行いながら情報収集し、スタッフと共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族などの意向を確認しており、入居者の状況が変わった際には再確認し主治医、看護師、家族、介護職員で話し合いを重ねる。事業所として出来る事を十分に説明して、支援させて頂いている。	終末期に関する指針を作成しており、ホームでできること、できないことを示して説明し同意を得ている。利用者の状態に変化があった場合は、主治医、看護師、家族、職員で話し合いながら対応方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行ってはいないが、急変時の連絡体制をとり看護師から電話であるが常に適切なアドバイスが受けられる様な体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各居室に救護区分を表示して、夜間でも光る蛍光色を使用している。避難訓練を6ヶ月毎に利用者、職員が参加して訓練を行っている。	東西に非常階段を設置することで避難経路を分散している。火災、水害、地震夜間などを想定した避難訓練を実施している。また、ワンフロアに2ユニットがあるので、何かあった時には2名の夜勤者で協力し合うことができる。	職員一人ひとりの気づきや判断力を養うとともに、引き続き、地域の協力体制構築に努めることが期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう職員は話し合い、ケアに取り組んでる。	名前は必ずさん付けで呼ぶようにしている。耳が遠い利用者には正面で口の開きが分かるように話しかけるなど、一人ひとりを尊重した支援に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望がいつでも自己表現出来るように、日常的な生活の中で常に職員は傾聴が出来る環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての入居者の希望に添って過ごす事は難しいが、訴えの中で可能な限り、業務優先ではなく希望を取り入れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の清潔の保持を心掛け、身だしなみやおしゃれには、職員が気に掛け、気節、気温などに合った服装で過ごされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食習慣の違いで食べられない物がある方などは、個別に対応している。毎日の食事も見目にも楽しめるように配慮を行い、盛り付け等にも工夫している。家事参加として食器拭きや片付けをされている。	日々の食事の時には玉ねぎの皮むき、食器拭きなど利用者もできる範囲で参加している。また、外食に出かけたり、恒例となっているそうめん流しは、天ぷらとともに提供し利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態や食事摂取量を把握して、その時の状態に合った食事量や水分量を提供し摂取量を記録し、常に必要な栄養が摂取できる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者全員が、食事とおやつの後には必ず職員が声掛け・見守りしながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握するように努めて、可能な限りトイレで排泄が出来るように支援をしている。	トイレで排泄することを心がけており、排泄チェック表により利用者個々の排泄パターンを把握するとともに、仕草などから声かけしてトイレ誘導する場合もある。併せてリハビリなども取り入れて排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の把握をしながら、食事や水分、服薬にて調整しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を基本的には決めてあるが、一人ひとり体調や要望に応じて、出来る範囲で対応させて頂いている。	床暖房であり、脱衣所も快適である。菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わえるようにして入浴を楽しんでもらっている。また、同性介助を基本として、利用者の羞恥心にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、適切な生活のリズムが整うように日中の活動支援を行い、夜間気持ち良く睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については入居者とご家族に適宜説明をしており、不安無く内服して頂けるようにしている。また、確実な服薬の支援を行い内服後の病状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性をよく理解し、生活にアクセントを持たせて張り合いのある生活ができるように、レクリエーションなどの活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣、お花見、夏祭りなど季節毎に計画を立てて外出を行っている。外食では、和食・中華など希望に添えるよう支援している。また地域の行事にも出来る限り参加させて頂いている。	気候がよい時には車いすや杖の利用者も一緒に散歩を楽しんでいる。また、外食に出かけたり、地域の敬老会への参加、計画に基づいた季節ごとの外出など、外に出る機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、本人が金銭の管理をする事ができれば、ある程度の現金を持って管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話をかかけたり、手紙を書いて出す事をお手伝いしたるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるようにフロア、廊下には掲示させて頂いている。居心地よく過ごせるように、飾り過ぎないように配慮している。	共用部分は床暖房になっており、冬でも快適に過ごすことができる。訪問時には季節がらクリスマスの装飾が施されていた。利用者が選んだ観葉植物を置くなど、居心地よく過ごせる空間をつくるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のイスをはじめ、ソファなど多様にイスを配置しており、好きなところに座って頂き思い思いに座って頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を活かし、出来るだけ自宅と同じように過ごせるように工夫をしている。	利用者はタンス、テレビ、テーブル、ぬいぐるみ、家族の写真など思い思いの品を持って来ており、一人ひとりが自分の場所として過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を活かして活動して頂き、自立して生活できる事への生きがい得られる様に支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所